

主日礼拝

2026年2月22日 10時20分～

司式:

奏楽:

「 荒れ野にいて 」

『エレミヤ書』は、裁きの後に与えられる回復と「新しい契約」の約束を語る重要箇所です。神はイスラエルとユダを再び「建て、植える」と約束され、もはや先祖の罪の連帯責任ではなく、各人が自らの罪に責任を負う時が来ると告げます(27～30節)。さらに神は、出エジプトの契約とは異なる新しい契約を結ぶと言われます。それは律法を石の板ではなく人の心に書き記す内面的契約であり、神と民との親密な関係の回復をもたらします。すべての者が主を知り、罪は赦され、もはや民の罪は思い出されないとのこと。ここに裁きを超える恵みと終末的希望が示されています。

『マルコによる福音書』では、主イエスが洗礼を受けられた際に、「あなたは私の愛する子、私の心に適う者」との天の父なる神からの御言葉が聞こえました。12節において「それからすぐに」と書かれているのは、主イエスの受洗と深い関係があるからです。神の子であるからこそ主イエスは聖霊によって荒野に行かれ、四十日間荒れ野にいて、サタンの試みを受けられるのです。それはやがて迎える十字架の受難の時に備えるためでした。そこは野獣のいる場所でしたが、天使たちが主イエスに仕えていました。ヨハネが捕らえられた後、主はガリラヤに来て、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい」と宣べ伝えられます。神の子主イエスの到来によって、神の国がもたらされるのです。レントに入りました。私たちも悔い改め、福音を信じて、レントの四十日間を過ごしましょう。

《神の招き》

前 奏 『詩編36編：悪は罪人の(賛美歌128番)』志村拓生
招 詞 ヨシュア記1章9節
賛 美 歌 55

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 エレミヤ書31章27～34節 (旧約1221頁)
マルコによる福音書1章12～15節 (新約 60頁)

子ども説教
交 読 詩 編 詩編91編1～13節 (109頁)
賛 美 歌 128
説 教 「 荒れ野にいて 」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 284

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 29
祝 福
報 告
後 奏 『いのちのいのちよ(賛美歌296番)』M.ドリシュナー

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像: